

《ASEAN》外相会議の顔ぶれ フィリピンが議長国として始動

東南アジア諸国連合(ASEAN)における昨年(2016年)最後の閣僚級会合は、ミャンマーの最大都市ヤンゴンで12月19日に開催された、同国西部ラカイン州のイスラム系少数民族ロヒンギャに対する人権侵害問題を協議する「ASEAN緊急外相会議」だった。そして、今年最初の閣僚級会合は、今年のASEAN議長国フィリピンのリゾート地・ボラカイ島で2月19日から開催予定の「ASEAN非公式外相会議(AMM Retreat)」である。ドゥテルテ政権下で安全保障・外交面で中国への傾斜を強めるフィリピンが、議長国として南シナ海の領有権や「航行の自由」問題での協議をどのように採配するのか注目される。ロヒンギャ問題なども含め、「ASEAN政治安全保障共同体(APSC)」の中核である「外相会議(AMM)」は今年、加盟10カ国間の結束を揺るがしかねないようないくつもの難しい外交課題に直面している。

【2017年ASEAN議長国】

《フィリピン》

■外相 Secretary of Foreign Affairs

ペルフェクト・ヤサイ Perfecto Yasay Jr.



2017年のASEAN外相会議(AMM: ASEAN Ministerial Meeting)・関連会議の議長。南シナ海問題では、1月中旬の記者会見で、国際司法裁判所が昨年7月に出した、中国の主張を否定する判決は「フィリピンと中国だけにかかわるものだ」として、ASEAN外相会議では取り上げないことを示唆。もっとも、同問題自体は「避けて通れない」とも発言しており、議事進行役としてどのように討議を進めるのか不透明である。

*ASEAN加盟10カ国における2016年中の新任外相4人のうちの1人。弁護士・政治家。元証券取引委員会(SEC)委員長。中道左派政党「バンゴン・ピリピナス(BPP: 立ち上がりフィリピン)」の幹部。中学・高校をドゥテルテ大統領の「お膝元」であるダバオ市で過ごしており、ドゥテルテ大統領の「同郷閣僚」の一人。

▼データ: 【年齢】70歳(1947年1月27日生まれ)【生地】(コタバト州)キダバワン【政党】バンゴン・ピリピナス党(BPP)【宗教】プロテスタント【学歴】セントラル・フィリピン大学(CPU: イロイロ市)卒(政治学)/国立フィリピン大学(UP)法学士/アテネオ大学経営学修士(MBA)/米国法廷弁護士資格取得【経歴】弁護士/【1979年】(米ニューヨーク)法律事務所(2カ所)シニア・パートナー(-90年)/【1983年】「Maceda Philippine News」社長、金融関連会社など数社を創設/【1987年】(帰国)法律事務所「サンホセ・ヤサイ&サントス」コミッショナー/【93年】証券取引委員会(SEC)理事/【95年】SEC委員長/【2000年】CPU理事長・学長(-16年)/【2010年】副大統領選(BPP代表)に出馬するが落選/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)外相(-現在)【家族】セシル(Cecile Joaquin)夫人(元人口委員会事務局長)との間に1男2女。

【2018年ASEAN議長国】

《シンガポール》

■外相 Minister for Foreign Affairs

ビビアン・バラクリシュナン Dr Vivian Balakrishnan



2018年ASEAN議長国の外相(今年中に内閣改造人事の対象にならなければ再来年は外相会議[AMM]の議長)。南シナ海情勢では、領有権問題に直接関係しないシンガポールの「中立的」立場から、当面の緊張緩和に向けた「海上衝突回避規範(CUES)」の策定を提案。

*2015年9月の総選挙後に発足した第4次リー・シェンロン政権で国際的な交渉能力を買われて現職(外相)に起用された。2001年に眼科医から政治家に転進。2004年のリー・シェンロン現政権発足以来、社会開発・青年スポーツ相や環境・水資源相などを歴任。

▼データ: 【年齢】56歳(1961年1月25日生まれ)【生地】シンガポール【人種】インド(タミール)系【宗教】キリスト教【政党】人民行動党(PAP)【学歴】国立シンガポール大学(NUS)医学部卒(MBBS)/同大学医学修士(眼科学)【経歴】【1986年】シンガポール国軍(SAF)衛生官/【93年】(英ロンドン)モーアフィールド眼科病院、(シンガポール)国立大学病院(NUH)などで眼科医/【97年】NUH眼科部長/【98年】NUS医学部準教授/【99年】シンガポール総合病院最高経営責任者(CEO)/【2001年11月総選挙】国会議

員に初当選/【02年】(ゴ・チョクトン政権)国務相(国家開発)/【03年】国務相(国家開発通産)/【04年】(第1次リー政権)社会開発・青年スポーツ相代行兼国務相(通産担当)/【05年】社会開発・青年スポーツ相兼第二通産相/【06年】(第2次リー政権)社会開発・青年スポーツ相兼第二情報通信・芸術相/【08年】社会開発・青年スポーツ相/【11年5月】(第3次リー政権)環境・水資源相/【15年9月11日総選挙】国会議員に再選(4期目: ホランド-プキティマ集団選挙区、【10月1日】(第4次リー政権)外相(-現在)【趣味】コンピューター、読書【家族】ジョイ(Joy)夫人との間に4子。

《タイ》

■外相 Minister of Foreign Affairs

ドン・ブラマツウィナイ Don Pramudwinai



ミャンマー同様に上座部仏教徒が多数派であるタイの外相らしく、「ロヒンギャ迫害」問題ではアウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相が率いるミャンマー政府には同情的な立場を示し、「問題は複雑であり、解決には時間が必要」と表明。内政では、現軍事政権の民政復帰に向けた誠意や具体的な行程を国際社会に説明することに腐心している。

*2015年8月に実施されたプラユット暫定内閣の改造人事で副外相から現職(外相)に昇格。外交官養成の名門・米タフツ大学フレッチャースクールで修士号を取得し、外務報道官をはじめ中国、EU、国連、米国各大使などの要職を歴任した元エリート外務官僚。

▼データ: 【年齢】67歳(1950年1月25日生まれ)【学歴】チュラロンコーン大学卒(理学士)/米カリフォルニア大学(LA)卒(政治学)/同大学修士(国際関係論)/(米)タフツ大学(フレッチャースクール)修士(国際関係論)/タイ国防大学文官課程修了【経歴】【1974年】外務省入省/大臣官房、ASEAN局で勤務/【81年】駐西ドイツ(ボン)大使館1等書記官/【84年】同参事官/【85年】本省政治局東南アジア部長/【88年】駐英公使/【92年】東アジア局長/【94年】駐スイス大使/【99年】情報局長兼外務省報道官/【01年】駐中国大使/【04年】駐欧州連合(EU)大使/【07年】(米ニューヨーク)国連大使/【09年】駐米大使/【10年】定年退官/【14年9月】(プラユット暫定内閣発足)副外相/【15年8月23日】(同改造内閣)外相(-現在)。

《マレーシア》

■外相 MINISTER OF FOREIGN AFFAIRS

アニファ・アマン Datuk Seri Anifah Aman



「ロヒンギャ迫害」問題ではミャンマー政府批判の「急先鋒」。昨年12月にミャンマーのヤンゴンで開かれた同問題に関する「ASEAN緊急外相会議」では、同会議の積極的意義を評価したものの、ロヒンギャの人権状況改善の進展が遅れているとミャンマー政府を批判し、ASEAN各国による人道支援やミャンマー国軍による残虐行為の調査などを提案した。

*2009年4月のナジブ現政権発足時から現職(外相)。与党連合の中核政党「統一マレー国民組織(UMNO)」のサバ州選出下院議員で、リゾート・ホテルや日刊紙を経営した経験もある実業家出身のベテラン政治家。マレー語、英語はもとより流暢な中国語(マンダリン)を話す。

▼データ: 【年齢】63歳(1953年11月16日生まれ)【生地】サバ州クニンガウ【人種】マレー人【宗教】イスラム教【政党】統一マレー国民組織(UMNO)【学歴】【1979年】(英)バッキンガム大学卒(哲学・経済学・法学)【経歴】弁護士/【1979年】「チェース・プルダナ社(Chase Perdana

Berhad)代表取締役(一98年)/[94年]「シャングリラ・タンジュン・アル・ビーチ・ホテル(Shangri-La Tanjung Aru Beach Hotel)」会長/[98年]「ニュー・サバ・タイムズ」グループ執行会長(その他、企業数社の役員を歴任)/[99年11月総選挙]下院議員に初当選(サバ州ビューフォート選挙区)、[12月](マハティール政権)副第一次産業相/[2004年3月](アブドゥラ政権)副ブランドン・産業・商品相/[09年4月10日](ナジブ政権)外相(一現在)/[13年5月総選挙]下院議員に再選(4期目:サバ州キマニス選挙区:一現在)【趣味】サッカー、ゴルフ【家族】シティ・ルビア(Siti Rubiah Abdul Samad)夫人との間に2男1女。

《ブルネイ》

■首相府相兼第二外務通商相 Minister at the Prime Minister's Office & Second Minister of Foreign Affairs and Trade

リム・ジョクセン(林玉成) Lim Jock Seng



ハサナル・ボルキア国王(Sultan Hassanal Bolkiah)が首相・財務相・国防相・外務通商相を兼任しているため、AMMを含む国際会議では実質的な「外相」の責務を果たしている。

*ブルネイの閣僚では唯一の華人。2015年10月の内閣改造で第二外交通商相から現職(首相府相兼第二外務通商相)に異動。

▼データ:【年齢】73歳(1944年1月22日生まれ)【学歴】(英)ロンドン大学(LSE)修士(哲学・社会人類学)【経歴】外務省ASEAN局長/駐ニュージーランド高等弁務官(大使)/[1986年]外交通商省事務次官/[05年5月]第二外交通商相/[15年10月22日]首相府相兼第二外交通商相(一現在)

《インドネシア》

■外相 Minister of Foreign Affairs

ルトノ・マルスディ Retno Lestari Priansari Marsudi



「海洋国家」を標榜するインドネシアは、自国海域での中国密漁船の拿捕などでは対中強硬姿勢を示しているものの、AMMでの南シナ海問題に関する同(ルトノ)氏の姿勢は基本的には「対中穏健路線」であり、中国と(同問題の当事国である)ベトナムなど東南アジア諸国との間を取り持つ「良き仲介者」を演じようとしている。「ロヒンギャ迫害」問題でも、「紛争解決プログラム」を主催するなど必ずしもロヒンギャの「苦難」に寄り添う立場とはっていない。良い意味でも悪い意味でも、元キャリア外交官らしく、外交を「仲介」や「調整」だとみているようにみえる。

*2014年10月のジョコ・ウィド内閣(「働く内閣」)発足時にインドネシア初の女性外相に抜擢された。キャリア外務官僚で前駐オランダ大使。2015年12月、ASEAN加盟国では初めてとなる日本との外務・防衛閣僚会合(2プラス2)を設置(同会合は2年に1度、定期開催する予定)。

▼データ:【年齢】54歳(1962年11月27日生まれ)【生地】中ジャワ州スマラン【学歴】[1985年]ガジャマダ大学卒(国際関係論)/(オランダ)ハーグ応用科学大学修士(国際・欧州法)/(ハーグ)クリンゲンダール国際関係研究所外交官研修課程修了【経歴】[1985年]外務省入省/[97年]駐オランダ大使館(ハーグ)経済担当1等書記官/[2001年]本省欧州・アメリカ総局長/[03年]西ヨーロッパ局長/[05年]駐ノルウェー大使/[09年]欧州・アメリカ総局長/[12年]駐オランダ大使/[14年10月27日](ジョコ・ウィド内閣)外相(一現在)【家族】夫君はアグス(Agus Marsudi)氏。子供2人。

《ベトナム》

■副首相兼外相 Deputy Prime Minister and Minister of Foreign Affairs

ファム・ビン・ミン Pham Binh Minh



2011年8月に成立した第13期内閣で外務次官から現職(副首相兼外相)に昇格。昨年1月に開かれた「ベトナム共産党(CPV)」の第12回党大会で、初めて政治局員(19人)の一人に選任された。

*東西冷戦時代から欧米諸国との関係改善では「開明」の姿勢で知られた故ゲン・コ・タク元外相(在任:1880~91年)の息子。現政府内では「親米派」と目されている。

▼データ:【年齢】57歳(1959年3月26日生まれ)【生地】(红河デルタ)ナムディン省【政党】ベトナム共産党(CPV):政治局員【学歴】ハノイ外交大学卒/(米)タフツ大学法学修士【経歴】外務省官僚/駐英大使館書記官/外務省国際機関局副局長/国連大使/駐米副大使/外務省国際機関局長/同省次官/[2011年8月]副首相兼外相(一現在)【党務】[2006年]中央委員(一現在)/[16年1月28日]政治局員(一現在)。

《カンボジア》

■外務・国際協力相 Minister of Foreign Affairs and International Cooperation

プラク・ソーコン Prak Sokhon



フン・セン首相が昨年4月に、世代交代を図るために実施した内閣改造で郵便・電信相から現職(外務・国際協力相)に横滑り。前任者のホー・ナムホン現副首相(81歳:人種的には華人)はAMMにおける親中派の筆頭格であり、南シナ海問題などでのそうした中国擁護姿勢を引き継いでいる。

*内戦時代はプノンペン政府の軍機関紙編集長。軍情報部長、駐仏大使などを経て入閣。

▼データ:【政党】カンボジア人民党(CPP):中央委員【年齢】62歳(1954年5月3日生まれ)【軍歴】陸軍大将【学歴】(プノンペン)法学士/(ハンガリー・ブダペスト)国際ジャーナリスト養成学院学位/(仏パリ)国際行政学院学位/(同)外交・戦略研究センター学位【経歴】[1979年](プノンペン政府)軍入隊、軍機関紙記者/[86年]軍機関紙副編集長/[93年]カンボジア王国軍情報部長(報道官)、(フン・セン)首相顧問/[99年]駐仏大使(EU、ジュネーブ国連代表部大使などを兼務)/[2003年]カンボジア王国政府副官房長/[04年]閣僚評議会議長官(副首相府相)/[09年]首相府相兼首相顧問/[13年9月](第4次フン・セン政権)郵便・電信相/[16年4月4日](フン・セン改造内閣)外務・国際協力相(一現在)【歴任】カンボジア地雷対策・被害者支援庁(CMAA)副長官/国連平和維持活動任務調整委員会(カンボジア)委員長【言語】カンボジア語、フランス語、英子【家族】既婚。子供3人

《ラオス》

■外相 Minister of Foreign Affairs

サルームサイ・コンマシット Saleumxay Kommasith



昨年4月に開かれた第8期第1回国会でブンヤン・ウォラチット大統領(トロンルン・シーシリット首相率いる新政権が発足した際に現職(外相)に抜擢された。オーストラリアの大学で修士号を取得し、駐米大使館での勤務経験(2度)もある元キャリア外交官だが、南シナ海問題などでのラオスの親中路線を維持していく姿勢には変わらない。

*昨年1月の第9回党大会で党中央委員に選出されたばかりで序列は50位。

▼データ:【年齢】48歳(1968年10月31日生まれ)【生地】(北部)フアンパン県【政党】ラオス人民革命党(LPRP):中央委員【学歴】[1992年](ロシア)モスクワ国立国際関係大学文学修士/[97年](蒙)モナシウ大学文学修士(国際研究学・開発学)【経歴】外務省官僚/[1992年]外務省第2局豪州課事務官/[94年]欧米局米国課事務官/[98年]欧米局西欧課課長補佐/[2000年](米ニューヨーク)国連ラオス政府代表部2等書記官/[03年]外務省国際機関局国連課課長/[04年]国際機関局副局長/[2007年]同局長/[11年]外務次官/[12年](米ニューヨーク)国連代表部大使/[14年]副外相/[16年1月](第9回党大会)中央委員に初選出(一現在、[4月20日](第8期第1回国会:トロンルン内閣)外相(一現在)【趣味】ゴルフ、サッカー【言語】ラオス語に加え、英語、ロシア語、フランス語を話す【家族】夫人と2女

《ミャンマー》

■国家顧問兼外相兼大統領府相

State Counsellor/Minister for Foreign Affairs & Minister for President's Office

アウン・サン・スー・チー Daw Aung San Suu Kyi



2016年4月に現職(国家顧問兼外相兼大統領府相)に就任して以来、少数民族武装勢力との和平交渉、民主活動家や学生運動家などの政治犯の釈放など国民と国際社会の期待に応えようと民主化を進めてきた。しかし、「ロヒンギャ迫害」問題では、国連機関や国際的な人権団体などから「国軍の人権侵害を黙認している」との厳しい批判にさらされている。背景には、国民の多数派を占める仏教徒の支持を失いたくないとの配慮、それに(現行2008年憲法に基づき)政府を凌ぐ権限を持つ)国軍に「寄り添おう」とする政治的な妥協が見え隠れする。

在野にあって反軍政・民主化運動の闘士だったころの姿は消え、権力の維持に腐心するかのように見える最近の姿には、国際社会や「身内」であるはずのASEAN加盟国の一部、それに少数民族からも「失望感」が表明されている。AMMなどの国際会議でも、国際社会が期待していたASEANの「民主主義のシンボル」や「ノーベル平和賞受賞者」としての存在感はなく、無難な発言にとどめている。

▼データ:【年齢】70歳(1945年6月19日生まれ)【生地】ランゲーン(現ヤンゴン)【政党】国民民主連盟(NLD):党首(議長)

(【学歴】【経歴】【家族】などの詳細は、AMR2016年4月15日号の当欄「《ミャンマー》ティン・チョー新政権の閣僚(上)」を参照して欲しい)

(アジア・リンケージ 勝田 悟)